

宮城県色麻町
持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2022.10.01

Vol.

9

October, 2022

第 9 号
隔月 1 日発行

しかま支え合い 情報誌

特集

近き者喜び 遠き者来たる

みんな活躍できれば

みんな楽しく暮らせる

楽しそうな町に人は集まる

In
下高城

SHIMOTAKAGI



協力隊の太田さん（右）に機械の使い方を教える康雄さん（左）。

秋晴れの青空が広がる土曜日の朝。宮城県色麻町小栗山地区にある南山果樹園には、作業する人の話し声や、農業機械の作業音が聞こえています。

「買ったばかりの機械だからね。試し運転してたところだよ」と話すのは、下高城地区の早坂康雄さん（七三）。今年、農業支援の地域おこし協力隊として色麻町にきた太田幸啓さん（三五）

自身の農園で 若者に農業指導

に、機械の使い方を教えているところでした。南山果樹園の一角に、康雄さんが営むリンゴ農園があります。そこで、協力隊の方や、農業初心者の方などにリンゴの育て方を教えています。

「いつも丁寧に教えていただいで、本当にありがたいです。でも、リンゴの見分け方はまだまだ難しいですけどね」と太田さん。



SDGs 目標 15

「もともとはサラリーマンだったんだけど、五二才で退職してリンゴ農園に専念したんだ。会社の人はみんな驚いてたけどね、自分の人生、やりたいことに時間をかけたいからね」と振り返ります。

協力隊の方たちなどのお世話をしているのは、面倒見のいい康雄さんの性格もあります。が、色麻のリンゴをもっと多くの人に知って

色麻のリンゴ もっと知ってほしい

もらいたいという思いがあるからだと話します。「南山のリンゴは本当に美味しいと思う。わざわざ仙台から来て、五十袋も買っている人だっている。でも、色麻のリンゴってそんなに有名じゃないでしょ？だからもっと知ってほしいんだよね。そのためにもっと人に来てもらわないと。そんな思いから、協力隊の方々や、農業に関心ある人の世話を買って出しています。」



↑リンゴの見分け方を教える康雄さん。

↓農業に関心を持つ若い人にリンゴ作りを教える康雄さん。



年長者がやるべきことは 後継者を育てること

康雄さんは、農園の見学も受け入れていきます。特に、子どもと高齢者の見学には積極的です。「子どもには、ずっとこの町に住んでいたいと思ってもらいたいし、高齢の方には、住んでいてよかったと思ってもらえる町でありたい。だから色麻のいいところは、どんどん紹介していきたい」と話す声に気持ちがこもります。康雄さんの農園には隣町の高齢者施設の利用者やフリースクールの子どもたちも訪れます。

「会社でもなんでもそうだと思うけど、年長者がやるべきことは、若い人を育てること。同じ人があまり長い間役職に就いてると、後輩も年取っちゃあう。そうないと、世代交代が上手くいかないよね」。全ての世代が活躍できる

場を創ることが重要で、人材がしっかり循環する社会にならないければいけないと話します。「みんな活躍できれば、みんな楽しいよね。町民が楽しそうにしてる町には、人が自然と集まると思いうよ」。

孔子の『論語』の一節、「近き者説（よるこ）び遠き者来たる」（※地元の人が喜ぶことをすれば、それを慕って遠くからも人が来るという意味）を地でいく康雄さん。

秋の収穫が近づくと農園で、今日も若者たちと夢を語り合っています。



SDGs 目標 4



SDGs 目標 11



康雄さんに教わっている協力隊の太田さん。



見学の皆さんに説明する康雄さん（写真右）。



フリースペース道の皆さんを案内する康雄さん（写真中央）。

地域の活動情報をお寄せください！ 生活支援コーディネーターの菅原が伺います！

こんにちは！色麻町生活支援コーディネーターの菅原一杉です！
皆さんの地区で地域のために活動されている方や地区での活動、お茶飲み会や各種ものづくり等の情報がございましたら、色麻社協（65-2260）までご連絡ください。



色麻町社会福祉協議会
色麻町生活支援コーディネーター
菅原一杉

情報誌にてご紹介させていただきます。皆さんの地区の活動が、よりよい社会づくりに貢献していきます。ご協力よろしくお願いたします！

EYE'S



●ふれあいは一と訪問鉢植え配達日● 10月19日(水)・20日(木)です!!

町内の七十五才以上の一人暮らしの方のお宅に、協力員さんが訪問する「ふれあいは一と訪問」。十月は鉢植え配達の日になっていきます。
今年も加美農業高校の皆さんが育てた鉢植えをお届けいたします！
配達日は十九日の水曜日と、翌二十日の木曜日です。
どうぞお楽しみに！

ふれあいは一と訪問



色麻町社会福祉協議会

このマークが目印です。

しかま支え合い掲示板

Wi-Fi完備 まちの交流拠点「かっぱ笑会」

色麻町役場前にある「かっぱ笑会」は、どなたでも利用できるコミュニティスペースです。昼間利用（9:00～18:00）500円、夜間利用（18:00～22:00）500円、終日利用1,000円でご利用いただけます。また、地産地消の日や、オレンジカフェの会場にもなっていますので、興味関心のある方は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

また、毎週月・水・木曜日の18:00～20:00は、入場無料で、フリーサロンとしてオープンしています。Wi-Fiも完備していますので、パソコンがあればリモートワークも可能です。ミーティングや待ち合わせなど使い方はいろいろ。交流拠点としてお気軽にご利用ください。



開館時間やお問い合わせは、下記の通りです！

【フリーサロンオープン時間】

毎週月・水・木 18:00～20:00

【フリーサロンお問い合わせ先】

かっぱ笑会 0229-87-3884

（月・水・木 18:00～20:00）

【ご予約お問い合わせ先】

加美商工会色麻支部 0229-65-4384

生活支援コーディネーターのホームページもご覧ください

色麻町生活支援コーディネーター事業のホームページもご利用いただけます。

色麻町の住民活動の紹介を中心に、見やすい構成になっています。随時お知らせも発信しています。

下記のアドレスにアクセスするか、QRコードを読み込んでご覧ください。

色麻町生活支援コーディネーターホームページアドレス

<https://shikama-sasaeai.com/>

色麻町生活支援コーディネーターホームページ

QRコード



まちの人と交流できる 子どもの居場所 ふれあい食堂 ボランティア募集中！

ふれあい食堂は、うちの人が帰ってくるまで、お友達や大人の人たちと遊んだり勉強したりして過ごせる場所です。

ふれあい食堂では、子どもの遊びや勉強の相手をするボランティアを募集中です。詳しくは色麻社協（65-2260）にお電話いただくか下記QRコードからメールでお問い合わせください。



ふれあい食堂の様子。



問い合わせ用
QRコード

しかま支え合い情報誌 vol.9

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：<http://www.shakyo.or.jp/hp/287/>

しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。